

ワッワッWORK

働き方改革関連法の施行もあり、「働き方」を巡る環境や意識が大きく変化しています。そこで、「働くこと」をテーマに座談会を実施し、中小企業ぐんまの特集ページにて、不定期でご紹介いたします。

第1回目は、本冊子の読者でもあり、組合を支える縁の下の力持ちとも言える組合職員3名をお招きし、組合を取り巻く環境変化や働く組合職員の声をご紹介します。



～仕事の流儀、環境変化、連携・交流、プライベートを語ります～



太田機械金属工業協同組合
事務局長 くりばら 栗原さん
入職年：昭和54年11月



西毛機械工業協同組合
事務局 こうま 高麗さん
入職年：平成6年7月



太田流通センター卸協同組合
事務局長 うぶかた 生形さん
入職年：平成24年4月

■入職のきっかけを教えてください。

栗原：当時、職業訓練校に通っていました。就職活動が始まった頃、太田のハローワークに組合の求人募集があったのがきっかけです。太田は工業の町でしたし、将来的に良いのではと思って応募しました。その当時は、こんなに長い間、お世話になるとは思ってもみませんでした。

高麗：私も富岡のハローワークです。事務職の希望をハローワークに登録したところ紹介がありました。

生形：太田流通センターは以前、連合会組織がありました。連合会に団地進出に向けた準備室があり、平成元年に知人の紹介でその準備室に就職したんです。その後、連合会の解散や自身の出産もあり1度退職したのですが、そのつながりで、また声をかけてもらったのが

きっかけで、平成24年から現在の組合に入職しました。

■皆様は、10年以上組合に勤務されております。最近では、コロナ感染症の拡大もあるなど、組合を取り巻く環境変化も多いと思いますが、そのあたりはいかがですか？

栗原：入職当時から組合事業も変わりましたね。昔は金融事業が大きな柱としてメインでしたが現在は休止しています。組合員企業さんも企業規模が拡大していますし、社長さんの世代交代などもありますね。事業の変化とともに「組合の存在意義」や「組合員さんの役に立つこと」を、常に頭に置いています。一方で、変わらないのは、組合員さん同士が相談できる横のつながりを求めていることだと思います。

生形：金融事業は当組合も行っていました。昔は団地への進出などでも組合組織は重要でしたので、そういった意味では、大きく環境の変化を実感します。その中でも、やはり組合員さんにとって魅力ある事業をとアイデアを出しながら努力しているところで、今はETC事業や団地の共同施設管理、研修会などを実施しています。

高麗：事業主の高齢化が進んでいます。世代交代が進んでいる企業ももちろんありますが、後継者さんがいらっしやらないということで廃業される企業もあります。さきほど、栗原さんの話にもあった、横のつながりという意味で、地域の製造業同士の連携は重要との声はあります。また、組合員数の減少で賦課金収入も減るため、組合の財源確保も悩ましいところです。委託事業を実施するなど工夫しています。

■組合予算の縮小という話が出ましたが、節約という面での工夫はありますか？

生形：会議案内や資料などはデータで組合員さんへ送付するようになりました。ペーパーレス化が進み、今では郵送はほとんど行っていません。

高麗：郵便料金の値上げを控え、当組合でも、郵送からデータ送付への切り替えについて検討し、メールアドレスの収集に取り組み始めていますが、なかなか思うように集まらない状況です。FAXを活用したり、近いところは持参したりして節約しています。

栗原：毎月発行していた機関誌発行を隔月に変更し、タイムリーな情報はホームページやメールを活用して情報発信を行っています。また、ホームページを通じて組合員向けに仕事の相談や依頼が入ってくることもあるんです。

■ホームページの活用というお話がありました。が、組合の情報発信についてはいかがですか？

生形：フェイスブックでイベント案内や開催案内などを情報発信しています。勉強しながらですが…。

高麗：当初、業者さんに依頼していたホームページの更新作業を事務局で行えるよう設定変更してもらいました。節約につなげるためでもありますね。なかなか更新作業に手が回らない時もあります。

■栗原さんと高麗さんは、おひとりで事務局をきりもりされておりますが、おひとりで良い面、逆に苦勞される点を教えてください。

栗原：以前は職員が2人おりましたが、現在の1人体制になり約10年、苦勞はありますが、やりがいは感じています。最近、商工会議所に一部業務委託をしており、少し作業的負担が減りました。時間管理は比較的自分のペースで仕事に取り組めることが良い点ですね。ただ、会議の開催案内などの文書作成、準備やチェック、役員さんのスケジュール調整など組合業務の多くをひとりで行わなければならない点は大変です。場合によっては、先のその先まで考えて準備をしなくてはならないこともあります。

高麗：私も在籍していた事務局長が退職してから約20年1人です。1人は大変なことも多いですが、仕事の達成感を強く感じられます。何かあった時には複数体制が心強いと思いますが、事務局としての困り事があるときなどは、役員さんに相談すると、親身になって対応いただけるので安心です。ただ、書類等の確認作業は、やはり1人だとチェック漏れが心配なので、資料を早めにとって、少し時間をおいてから再確認するよう工夫しています。

栗原：突然の来客対応時も、やりかけた仕事の手を一旦止めなくてはならないので、再開時は少し前に戻って確認してから作業開始となるので時間的ロスがありますね。それと、仕事を立て込んで、もし期限に遅れたとしても、誰かに責任転嫁はできませんね。

■生形さんの職場は、おふたりですが、今のお話を伺っていかがでしょうか？

生形：2名体制であることを余り普段意識していませんでしたが、日頃から、お互いの書類を

確認し合っていますね。そして、お互いの業務の進捗状況は情報共有をしっかりと行うよう心掛けています。過去の経験から、明日急遽、出勤できなくなるかもと、不測の事態が起きることを常に考え、どちらかがいなくてもわかるような状態で仕事を終わらせるようにしています。突発的な事も多いので、時間の効率も考えながら。

栗原：そうですね。1つの事だけをやっているだけでいいということは少なく、並行していくつかの仕事を効率的にこなすことが重要ですね。

高麗：1人だと、休みはなかなか取り難いですね。健康なので大丈夫ですが。組合は、特に4～6月は、その時期にやらなければならないことが決まっているため忙しいですね。当組合は労働保険事務組合の業務もあるため年度更新事務の時期も重なり大変です。

栗原：私も大きな病気もケガもなく健康ですね！(笑)幸いにも。

法律の改正などもあり、休まなくてはと意識しても最低限の取得になりますね。4～6月が慌ただしく過ぎ、9月頃になると少しほっとして、また11月後半頃からは忙しくなる…そんなサイクルでしょうか。

生形：お子さんがいる子育て中の方は、子供の行事の重なりやすい時期もあるので、時間のやり繰りは大変だと思います。

■先程、後継者というキーワードが出ましたが、皆様の組合には青年部組織はございますか？

栗原：あります。事務局が私1人なので、青年部の方が会議開催時の受付など手伝ってくれますし、ホームページの更新なども協力してくれます。組合のためという意識を持って動いてくれますし、気軽に相談にのってもらえるので本当に助かっています。

生形：私どもでは年齢に制限をかけない「経営者研究会」があり、楽しそうに活動を行っています。提案を出してもらえたり積極的です。また、1年交代の持ち回りで経営会長が変わるので、その年ごとに個性が出て面白いですし、経営者研究会からだんだん本部役員へ活躍の

舞台が移ってきており、活躍が楽しみです。

■生形さんは、中小企業組合士の資格を取得されていますが、取得するきっかけを教えてくださいませんか？

生形：当時の事務局長さんから取得するよう話があり、約20年前に取得しました。まだ子供が小さかったので、仕事、家事、子供の世話を終えてからの夜と、早起きして家族が起きる前の時間を勉強時間に充て、合格につなげることができました。今考えると、時間がないから逆に勉強に集中できたのかもしれない。



生形さんが取得した組合士証

■栗原さんと生形さんは、組合事務局責任者の交流を目的とした群馬県中小企業団体事務局長会に加入していただいておりますが、いかがでしょうか？

栗原：事務局長という立場で会に参加しており、多くの方々と知り合うことができましたが、もっと気軽に事務局で働く方々が参加できる会になればいいなと思います。

生形：男性・女性・役職に関係なくいろいろな方が参加してくださると会は活性化するのではないのでしょうか。

■高麗さんが、おふたりとお知り合いになったきっかけは何でしょうか？

高麗：中央会の女子職員研修会でお会いしたのが最初かもしれません。わからないことや参考にしたいことなど、ふたりに連絡を取って相談しています。

■ワークライフバランスが注目されていますが、プライベートでハマっていることがあったら、教えてください。

栗原：もともと歌を歌うことが好きだったので、テレビののど自慢番組に出演したことを機に歌う楽しさを再確認し、作曲など本格的な音楽活動を始め、アルバムを2枚作ることができました。事務局長会での縁で、演奏をお願い出来る方と知り合え、時々、イベントに出演して歌を披露させていただいています。



(上)CDアルバム
(左)ライブでの歌唱

生形：今は、毎日のジョギングです。無理しないことが続ける秘訣だと思い、余り長い距離は走りません。時には、運動着に着替えず、走ることもあり、無理をせず汗を流すことでスッキリします。

高麗：新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに、ピアノを始めました。毎日、出勤前に練習しています。ルーティーンになっていて、その時練習している曲を早く完成させたいという思いでピアノに向かっています。また、茶道も30数年続けていますが、暑い時期以外は、着物を着てお稽古をして社中の方と一緒に非日常を楽しんでいます。ピアノは1曲が弾けるようになることで達成感、茶道は社中の方とお稽古をすることで一体感を楽しんでいる感じです。



高麗さんが通うお茶室

■プライベートでのリフレッシュが、仕事への活力にもなっているということでしょうか。達成感というフレーズが出ましたが、働くことで得られる達成感や充実感はどんな時に感じますか？

栗原：入職当時から今では、ほとんど3世経営者へと変わってきています。その時代時代での出来事や逆に皆さんに助けられて今日まで来た思いが強く感慨深いです。その分、今は少しでも充実した事業や組合の素晴らしさなどを感じて貰えるよう努力したいと思っています。

生形：組合で開催した研修会の参加者さんから、「良い研修だったよ」と言ってもらえると、とても励みになります。

高麗：そうですね。こちらも一生懸命準備するので、良かったと言ってもらえると嬉しいですよね。

■最後に、仕事をしていくにあたって一番心掛けていること、向き合い方などあれば教えてください。

栗原：当たり前ですが、常に組合員の方々は「お客様」と思う意識で接することを心掛けています。

生形：しっかりと慎重に仕事に取り組むようしています。会議の準備等では、組合員さんからの質問を想定し、回答できるようにと常に考えながら向き合っていますが、時には、予想していなかった質問をされることもあり、それが、勉強になることも多く、視点を変えた見方につながることもあります。

高麗：組合員さんや仕事に対して、誠実であることです。絶えず大きな間違いがないように、失礼がないようにと心掛けています。

■本日はありがとうございました。



令和6年9月2日 群馬県中小企業会館 応接室にて